

啓発ビデオ・DVD作品

No.	タイトル	時間	内 容
1	「ひろがれ チャンゴの響き」	38分 ・ ビデオ	人権の街づくりが、地域の課題となってきました。人権が豊かに保証された街づくりは、国、県、市町村の関係機関と地域住民が一体となって作りあげていくものです。この作品は在日外国人、とりわけ在日コリアンを中心に取材した力あふれる感動のドキュメンタリー映像です。
2	「老いを生きる」	35分 ・ ビデオ	誰もが通らなければならない老いの問題を自分のこととして捉え、日常生活の中で高齢者に対するやさしさや思いやりの心が、態度や行動に表れるような人権感覚を身につける作品です。
3	「ぬくもりの ^{いろ} 彩」	36分 ・ ビデオ	突然障害を持った高齢者との同居を余儀なくされた家族が、同和地区の青年との出会いにより、差別意識の誤りに気づき、人を思いやる心や家族のぬくもりを取り戻していく。
4	「ひとみ輝くとき」	35分 ・ ビデオ	子どもの世界で起こっている、いじめや虐待の問題を大人が自分のこととして考え、子どもを家庭・学校・地域社会が協力し合って支えていく社会の形成ができることを願い制作された。また子どもたちが鑑賞して「いじめ構造」を知ったとき自分はどの立場にいるのかを判断し、皆で考え、話し合いのできる作品。
5	「あの空の向こうに」	38分 ・ ビデオ	私たちが、普段何気なく使っている携帯電話やインターネットがある日突然「凶器」に変わってしまう。携帯電話やインターネットによる人権侵害は、いつ、誰の身に起きても不思議ではない深刻な問題です。だれもが被害者に、そして加害者にもなり得るのです。このドラマは決して携帯電話やインターネットを敵視するものではありません。文明の利器を凶器に変えるのも、傷ついた心を癒すのも「人」なのです。本当の意味での心のつながりとはどういうことかを改めて見つめ直し、お互いに「思い」を交わし、心の寄り添うようなコミュニケーションの大切さと家庭の果たす役割にも気づかせます。インターネット等の利用にあたっての人権意識・人権感覚の重要性や人と人とのふれあい・語り合いの大切さを訴え、こころ豊かなコミュニケーション社会をめざして、このドラマは制作されました。

No.	タイトル	時間	内 容
6	「クリームパン」	36分 ・ ビデオ	子供の虐待や若者の自殺など社会問題になっている事件を通して、社会や地域の中で孤立している人々に対する正しい理解を訴えるとともに、このドラマを見た方々に、今一度「いのち」について自分の問題として考えていただけるような啓発ビデオが制作されました。
7	「桃香の自由帳」	36分 ・ ビデオ	このドラマは、劇的な事件は、描かず、どの地域でも起こりうる出来事に光を当てています。日常何気ない言動を振り返ることで、現代を生きる私たちが見失いつつある、人と人との寄り添い、共に生きる温かな世界とは何かについて語りかけます。
8	「生まれ来る子へ」	25分 ・ DVD	このドラマでは、「家庭の中の人権」に目を向け、祖父母と孫夫婦の会話を通して、私たちの身の回りにある人権問題をクローズアップしています。家庭の中で、人権の尊さについて語り合い、伝えていくことはすべての「いのち」を大切にすることでもあります。気づくこと、そして、行動することの大切さを描きます。
9	「ほんとの空」	36分 ・ DVD	<p>誰もが他者の排除や差別がよくないことは理解している。その一方で、私たちは自分や身近な人に関わる出来事には敏感に反応するけれど、それ以外のことは他人事のように感じたりする。また、私たちは、自分や家族の生活を守るために、あるいは誤解や偏見に気づかずに、他者を排除したり、傷つけたりしがちである。</p> <p>主人公向井弓枝もそんな一人。弓枝の心を揺さぶったのは、息子輝の友だちを思う純粋な気持ちと、同じ集合住宅に他国から引っ越してきた隣人である。</p> <p>誤解や偏見に気づき人と深く向き合うこと、他者の気持ちを我がこととして思うこと。すべての人権課題を自分に関わることとして捉え、日常の行動につなげていくことを意図する。</p>

No.	タイトル	時間	内 容
10	「カラフル」 平成 27 年度購入	3 1 分 ・ DVD	<p>「人権問題」というと、難解で、政治や法律や一部の組織に関わる人だけに関係があるものだと思われがちです。しかし、「“人権”の問題は、“人間”の問題」。私たち1人ひとりが生きていく日々の中に存在します。気づかずにいると、知らず知らずのうちに他者の人権を侵害してしまうこともあります。そして人権に対する意識の基盤は、家庭の中で育まれていきます。</p> <p>このビデオでは、両親と人生の巣立ちの時を迎えた子どもたちの会話を通じて、家庭の中にある人権課題を取り上げています。1人ひとりが「人権」に対する意識と知識を高め、家庭内で話し合うきっかけとしてお役立てください。</p>
11	<small>こすもす</small> 「秋桜の咲く日」 平成 27 年度購入	3 4 分 ・ DVD	<p>「違い」を認めないことによって、差別は始まるといえます。人はそれぞれ違うものなのに、違うというだけでその人を排除してしまう傾向が人間にはあります。</p> <p>違いを理解し、認め合うことが大切であることはもちろん、本当にすべての人の人権が尊重される社会とは、それぞれの違いを活かすことのできる社会だといえるのではないのでしょうか。</p> <p>この映画は、「目に見えにくい違い」の一つとして発達障害をとりあげています。発達障害のある人の生きづらさや痛みを真摯に伝えるとともに、「違い」が生み出すプラスのエネルギーを美しく群生するコスモスの花々と重ね、「ともに生きることの喜び」を伝えるための教材として制作されました。</p>
12	「あなたに 伝えたいこと」 平成 28 年度購入	3 6 分 ・ DVD	<p>この物語の主人公は、ごく普通の若い女性です。物語が進む中で、彼女は、自分の祖母や母が同和問題でつらい思いをしてきたことを知ります。彼女の結婚話を中心に、恋人や友人、家族などとの関わりを通して、ネット上の情報だけではなく、実際に人とふれあう中でお互いを正しく知り合うことが、同和問題やすべての差別をなくしていくために重要であることを、明るい希望とともに伝えます。</p>
13	「風の匂い」 平成 28 年度購入	3 4 分 ・ DVD	<p>本作は、スーパーマーケットで働く青年、歩と正人が主人公です。歩には知的障害がありますが、子ども頃は共に遊び、共に学ぶ「大切な友だち」でした。しかし、大人になった二人を隔てる健常者と障害者という壁。その壁を作っているのは誰なのか。</p> <p>二人の成長と職場での人間模様を通して、社会的な課題でもある「合理的配慮」についても触れ、見る方々が自分自身の問題として考えるきっかけとなるドラマ教材です。</p>

No.	タイトル	時間	内 容
14	<p>こえ 「聲の形」</p> <p>平成 29 年度購入</p>	<p>30分 ・ DVD</p>	<p>将也と硝子のドラマを通じて描く、「いじめ」そして「障がい者との共生」</p> <p>転校してきた硝子は聴覚障がい者だが、筆談ノートで皆に積極的に語りかける。当初は好意的に硝子を受け入れていたクラスだったが硝子が原因で授業が止まり、筆談ノートの煩わしさに徐々にストレスを感じていく。</p> <p>先生や生徒たちが硝子へ自分たちのメッセージを伝え、硝子のメッセージをどう受け止めるか、そのコミュニケーション方法も含めて一人ひとりが考えてほしい作品となっています。</p>
15	<p>「光射す空へ」</p> <p>平成 29 年度購入</p>	<p>32分 ・ DVD</p>	<p>同和対策審議会答申が出されて 50 年。その間、国や地方自治体等で様々な取り組みが行われ、同和地区の生活環境は大きく改善されました。しかし、同和地区・被差別部落と呼ばれる地区の出身者や住民に対する差別は形を変えて根強く残っています。また、まだ十分に認識されていない人権課題として、性同一性障害や性的指向における少数派の人々、若年性認知症と診断された人々に対する誤解や偏見もあります。</p> <p>この映画では、大学生たちの悩みと学びを通して、「正しい知識と理解」「多様性の受容と尊重」の大切さを描いています。登場人物たちとともに、誰もが人権を尊重され自分らしく生きていける社会について考えていただければ幸いです。</p>
16	<p>「ヒーロー」</p> <p>平成 30 年度購入</p>	<p>34分 ・ DVD</p>	<p>近年、社会から孤立している人が増えてきており、孤独死などが大きな社会問題となっています。家族や地域、職場のつながり、いわゆる血縁や地縁、社縁の希薄化による問題です。こうした「無縁社会」と呼ばれる社会状況に対し、私たちに何ができるのでしょうか。</p> <p>この作品の主人公の行男は、働き盛りのサラリーマンです。地域社会と縁を持たなかった行男が、あるきっかけから地域と関わるようになり、今まで意識しなかった近所の高齢者や家族と出会っていきます。そうした体験の中で、自分の家族との絆も深めていきます。</p> <p>「無縁社会」の中で、地域で起こる身近な人権問題に対し、傍観者としてではなく、主体的に行動することで、新たな地域のつながりを結んでいく大切さを実感してもらうために、このドラマは制作されました。</p>

No.	タイトル	時間	内 容
17	「ココロ屋」 平成 30 年度購入	25分 ・ DVD	<p>「ココロ」とは何でしょう？これは、私たちにとって永遠の謎であり、自分の「ココロ」を問い続けることが、私たちの人生のテーマの一つでもあります。</p> <p>「ココロ屋」は、この謎に向かい合うためのヒントとなる優れた児童文学を原作にしたアニメーションです。学校教育においても、道徳の時間は心についての教育です。また、特別活動も児童の心と行動を育てるための時間であり、総合的な学習の時間なども含め、この教材の活用の機会は多いものと考えられます。</p> <p>また、自分の心を大切にし、相手の心も大切にするという、人権教育の基本的な考え方が盛り込まれています。この作品に登場する「優しいココロ」や「素直なココロ」についてなどは、アサーションの考え方を児童にわかりやすく伝えるためのツールにもなります。</p> <p>未来を担う児童のための、有用なアニメーション教材としてご活用いただければと思います。</p>
18	「めぐみ」	25分 ・ DVD	<p>このアニメ「めぐみ」は、昭和52年、当時中学校1年生だった横田めぐみさんが、学校からの帰宅途中に北朝鮮当局により拉致された事件を題材に、残された家族の苦悩や、懸命な救出活動の様を描いたヒューマン・ドキュメンタリーアニメです。</p> <p>このアニメは、漫画「めぐみ」(原作・監修：横田滋・早紀江、作画：本そういち、出版社：双葉社)をモチーフとして制作されました。</p> <p>このアニメ「めぐみ」のDVDは、国内外の拉致問題啓発、特に、映像による広報が効果的であると思われる若年層の理解促進を図るために活用されています。</p>